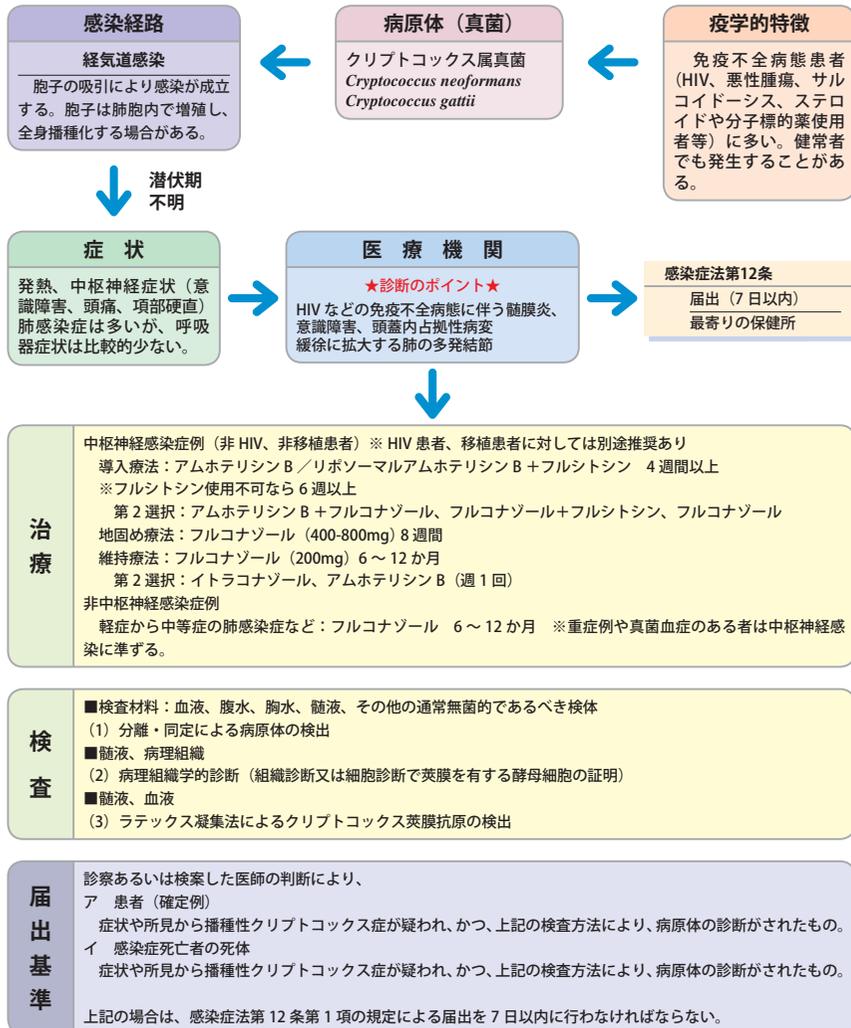


## (19) 播種性クリプトコックス症 ……五類感染症・全数

## Disseminated cryptococcosis



## 参考図書

- Perfect JR, et al. Cryptococcosis (*Cryptococcus neoformans* and *gattii*). Mandell, Douglas, and Bennett's Principles and Practice of Infectious Diseases, 8th ed., Bennett JE, Canada, 2015, 2934-48.
- Perfect JR, et al. Clinical practice guidelines for the management of cryptococcal disease: 2010 update by the infectious diseases society of America. Clin Infect Dis.2010; 50:291-322
- 国立感染症研究所. 播種性クリプトコックス症の発生動向、2014 年第 39 週 ~ 2015 年第 37 週. IASR 2015; 36: 183-4.
- MacDougall L. et al. Risk factors for *Cryptococcus gattii* infection, British Columbia, Canada Emergency Infect Dis. 2011; 17:193-9
- 掛屋弘、河野茂 *Cryptococcosis*, Med. Mycol. J., 2011; 52:183-91.

## 発生状況

日本国内においては、年間で 100 例前後の届出がある。届出開始以前の臨床分離株の全例は *Cryptococcus neoformans* であったが、近年は *Cryptococcus gattii* による症例も散見されている。*Cryptococcus neoformans* は主に免疫不全者が発症し、*Cryptococcus gattii* は免疫が正常でも発症することがある。

## 臨床症状

発熱を伴うことが多いが、国内報告では 60% 弱と頻度は高くない。国内でも中枢神経症状が最も多く、意識障害、頭痛、項部硬直などを伴う。日本国内で報告された播種性クリプトコックス症では、肺感染症の割合は 20% ほどと少なかったが、非 HIV 感染症患者においては 40% 弱が肺感染症のみであったとも報告されている。稀ではあるが、皮膚、眼、前立腺などに感染を生じることがある。

## 検査所見

血液や髄液などの無菌領域からの真菌の分離: 未治療患者では 3 ~ 7 日で発育する。菌量が多い HIV 患者などでは髄液の墨汁染色により顕鏡下に観察できることが多い。ラテックス凝集による抗原検出も感度、特異度とも 90% を超える: *Trichosporon asahii* との交差反応を生じることや *C. gattii* が検出できない点については留意する必要がある。

## 病原体

*C. neoformans* var. *neoformans* / var. *grubii* (血清型 A、D、AD; 遺伝子型 VN I ~ IV、VNB)  
*C. gattii* (血清型 B、C; 遺伝子型 VG I ~ IV)  
 現在は遺伝子型の同定が行われている。

## 感染経路

空気中に飛散した胞子の吸引により感染するとされるが、ヒトヒト感染事例については報告はない。*Cryptococcus neoformans* は土壌に生息し、ハトなどの鳥類の糞便中で増殖する。*Cryptococcus gattii* は土壌や腐った樹木中の菌を吸引し感染するとされている。

## 潜伏期

不明。

## 行政対応

医師は、患者を診断、または当該疾患により死亡したと診断した場合、7 日以内に指定の届出様式により最寄の保健所に届け出る。

## 拡大防止

明らかな感染リスクは不明である。標準予防策を実施する。

## 治療方針

抗真菌薬の長期投与を指針に準じて行う。脳脊髄圧亢進患者では頻回に腰椎穿刺を行い、除圧を試みることも治療の一つである。